



令和5年度「文化発表会」終了

令和5年度の文化発表会が10月21日(土)に実施されました。6月の運動会同様に、新型コロナウイルスが5類に移行したことにより、これまでの制限が全て解除された中で文化発表会となりました。午前の部は「合唱コンクール」、午後はI組の合唱と器楽発表、そして文化発表会の最後の取りは吹奏楽部によるコンサートです。I組の発表の後には、観客席の生徒からお互いの健闘をたたえ合うかのように盛大な拍手が湧き起こりました。また、吹奏楽部の演奏は、聴く人も演奏する人も、共に楽しむことのできる趣向を凝らした内容でした。

さて、午前中の合唱コンクールでは審査員の立場で全クラスの発表を聴かせてもらいました。歌の出来栄はさておき、各クラスの歌声を聞いていると、そのクラスの個性が良く伝わってきました。また、歌声と共に各クラスの担任の顔や学年毎の教員の顔がオーバーラップして、合唱コンクールはクラス経営及び学年経営の集大成であると感じました。

教育の世界に「アクティブ・ラーニング」と呼ばれる教育法が注目されるようになって久しいですが、この教育法は先生から生徒への一方的な講義ではなく、課題を解決するために生徒たち自身にも主体的かつ協働的に学んでもらおうという考え方です。こうしたアクティブ・ラーニングの宝庫といえる活動が、実は音楽の授業における「合唱」です。

合唱はまず、生徒たち自身がそれぞれに歌う意欲を持たなければ成り立たないという点で、一人一が主体的であることが求められます。また、それぞれが好き勝手に歌うのではなく、全員の声を合わせてハーモニーを生み出していかなければならないので、協働的であることも必要です。主体性と協働性の双方を大切にしながら全員で練習を積み重ねていくうちに、生徒たちはより深い学びを得ることができるようになります。それは音楽的な学びだけではなく、お互いを思いやる気持ちや合唱を聴いてくれる人に対する感謝など、人間的な成長も促す学びとなります。そういった合唱の持つ特性に着目し、音楽科では、音楽の授業の合唱の単元において「プロジェクト型学習(以下PBL)」を取り入れ、生徒たちは音楽表現の実現プロセスを学習してきました。PBLでは、生徒個人の探求テーマに沿って学習内容を自ら組み合わせる活動を行ってきました。生徒たちは合唱の授業時間を使って、個人練習を行うか、パート練習に参加するか、調べ学習を行うかなど、自分の創りたい表現に応じて学習することを学びます。また、自身の歌唱表現を商品価値として扱い、マーケティングを広げていくために必要な魅力・要素や人材のスカウトを通して、歌唱の商品価値向上も学びました。こうした取組は本校の技術科・美術科とも連携をしながら生徒のモチベーションを高めています。

ですが、中学のカリキュラムにある音楽の授業の限られた時間だけでは、合唱に親しむのには難しい側面もあります。例えば朝の授業の開始前や、昼休み、放課後などに1日につき10分か15分だけでもクラスのみみんなで合唱をする時間を設けると、息の長い取組を続けることができるでしょうが、それにも限界があります。そういった練習環境の中で、ポイントとなるのはクラスの中で合唱のリーダーとなる生徒の育成です。リーダーとなる生徒を育てられれば、参加する全員に対して波及効果が期待できます。そして、ここで試されるのが学級担任であり学年を統括する学年主任の手腕です。

担任はリーダーをうまくサポートし、まずは合唱は楽しいと思ってもらうこと、そして他クラスの歌声や1、2年生は3年生の歌唱を聴き、もっとうまく歌いたいという憧れをもって歌うことも合唱を教える際の重要なポイントとなります。生徒の歌声と共に各クラスの担任の顔や学年毎の教員の顔がオーバーラップすると言った理由はここにあります。

合唱コンクールの結果は、偶然にも全学年A組が優勝しました。合唱の完成度よりも、本番当日まで生徒の合唱に対するモチベーションを本番まで維持することのできたクラスが優勝したように私は感じました。みんなで合唱したときのハーモニーの感動(特に3年生の学年合唱は圧巻でした。歌う生徒の表情も素敵でした。)は、その後の長い人生の中でも、ずっと心の中に思い出として残っていきます。誰でも参加できて、みんなの心を豊かにし、人間として、クラスとして、学年としての成長も促すことが、合唱の魅力だと思います。生徒の皆さん、実行委員の皆さん、先生方、準備から練習、当日の運営等、本当にお疲れ様でした。そして最後まで鑑賞して頂いたご来賓、保護者の皆様、ありがとうございました。

合唱コンクール結果

学年・学級	金賞クラス	指揮者賞	伴奏者賞
第1学年	1年 A組	亀川 観世	中田 柚
第2学年	2年 A組	澤田 晴	大日向 亜虹
第3学年	3年 A組	渡辺 真央	八尋 俊司
I組	文化発表会 優秀賞		

結果は、その過程の一部にすぎません。物事の過程を大切にすることで、1～10に至る中で、「1の意味」「2の意味」「3の意味」…を大切に、その一つ一つにおける、「学び」や「気づき」や「成長」を大切にすることができれば、その足取りはそのものに(その取組に)大きな意味を見出せます。

令和5年度		11月行事予定表（家庭用）				中野区立第二中学校				
		今月の目標：時間を大切にしよう								
日	曜	行 事	会議・生徒会・その他	時程	学習室	給食	12月行事予定(19日)			給食
		(授業日数21日)					日	曜	行 事	
1	水	学年会				○	1	金		○
2	木	三者面談開始(3年) 受験写真撮影(3年)				○	2	土		
3	金	文化の日 連合文化発表会					3	日		
4	土	初期消火訓練					4	月	学年朝礼 安全指導	○
5	日						5	火		○
6	月	学年朝礼				○	6	水		○
7	火	脊柱側彎検診(1年) 安全指導				○	7	木	三者面談終	○
8	水	中教研(教科)				○	8	金	避難訓練 専門中央	○
9	木					○	9	土	土曜授業 道徳授業地区公開講座 保護者会(1・2年)	×
10	金	三者面談終(3年) 避難訓練				○	10	日		
11	土	土曜授業 進路説明会 学校説明会 PTA運営委員会				×	11	月	生徒朝礼	○
12	日						12	火	学	○
13	月	定期考査Ⅲ 1日目				○	13	水	職	○
14	火	定期考査Ⅲ 2日目				○	14	木		○
15	水	定期考査Ⅲ 3日目 I組食堂				○	15	金	入試相談開始	○
16	木	定期考査予備日 専門・中央委員会		★		○	16	土		
17	金					○	17	日		
18	土						18	月	朝礼	○
19	日						19	火	朝礼	○
20	月	生徒朝礼 宿泊事前健診(1年)				○	20	水	小中連携協議会②	○
21	火	分				○	21	木		○
22	水	イングリッシュキャンプ(1年)				○	22	金	大掃除	○
23	木	勤労感謝の日 イングリッシュキャンプ(1年)					23	土		
24	金	振替休業日(1年)				○	24	日		
25	土						25	月	全校集会	○
26	日	スピーキングテスト(3年)					26	火	冬季休業日開始	
27	月	全校朝礼				○	27	水		
28	火					○	28	木	教育活動休止日	
29	水					○	29	金		
30	木	三者面談開始(全学年) 色覚検査(1年)希望者				○	30	土		
							31	日		
備考										

